

ブラジル金融政策（2026年1月）

次回会合での利下げ開始を示唆

2026年1月29日

5会合連続で政策金利を据え置き、次回3月会合から慎重な利下げへ

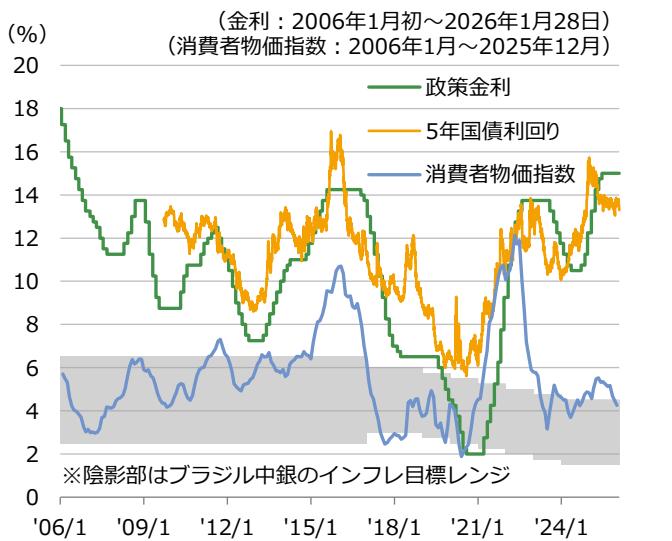
ブラジル中央銀行は1月27～28日（現地）に金融政策決定会合を開催し、市場予想通り政策金利を15.00%に据え置くことを決定しました。据え置きは5会合連続です。

インフレ率（消費者物価指数・前年同月比）は、昨年11月が+4.46%、12月が+4.26%と、インフレ目標レンジ（3±1.5%）の上限を下回って推移しており、市場参加者およびブラジル中銀による当面のインフレ率予想も前回会合時点から低下しています。こうした状況下、ブラジル中銀は声明文で「次回会合において金融政策スタンスの柔軟化を開始する見通しである」と記し、利下げ開始を明確に示唆しました。他方、ブラジル中銀の見通しでは、金融政策の想定期間を通じてインフレ率が目標中心の3%を上回り続けることから、「金融政策は引き締め的な水準を維持する」ことを強調し、利下げのペースと規模は慎重に判断する姿勢も示しています。

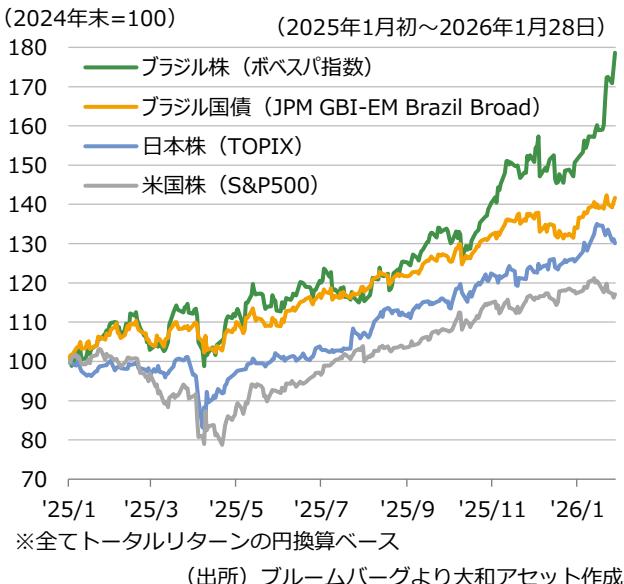
足元で日米当局による為替介入への警戒から円高・米ドル安が進行しましたが、同時に米ドル離れの思惑が強まる中でブラジル・レアルなど高金利通貨の米ドルに対する増価も目立ちます。利下げ開始への期待もあってブラジルの株式・債券市場は好調で、円換算ベースで見ても堅調に推移しています。利下げが株式・債券に追い風なのは当然ですが、引き締め的な水準を維持しながらの慎重な利下げは通貨レアルの支援材料であり、ブラジルの金融資産は円換算ベースで見ても引き続き堅調に推移すると予想しています。

（執筆：調査部 岩手幸久）

■ ブラジルの金利とインフレ率



■ 各資産の推移



当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧説を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 当資料は信頼できる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指標・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまで参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。